

後継者として技術を高め、経営を支える

肱川町山鳥坂で電気工事業を営む家庭で育った私ですが、将来の仕事について考えたのは高校3年の頃でした。大阪の専門学校で電気工事技術を学び、東京で就職しました。就職先の会社は、高層ビルの電気工事を請け負うことが多く、新宿にある損保ジャパン本社ビルのフロアや、東京都庁の議場の電気工事に携わったことは、懐かしい思い出です。

東京で5年間の経験を経て、大洲に戻り、社長を務める父の会社の社員となって13年目を迎えました。帰郷した当時、大洲市役所の別館新築工事があり、その配線・電気工事が故郷での仕事のスタートでした。これまでの仕事現場は、市内だけでなく、発注先の要請で西条市や高知県の工場に長期間、出向くこともありました。最近も久万高原町にある豚舎の温湿度管理設備の電気工事です。毎日、自宅と現場とを往復するなど、忙しい日々を送っていました。電気工事は、他の工事部門と異なり、建物本体着工前に現場事務所の立ち上げから現地に入り、完成引き渡し時まで長期間、現場での仕事が続きます。完成した建物に照明が灯り、製造ラインやオフィス内のシステムが無事始動するのを見届けたとき、ホッとすると同時に、大きなやりがいを感じます。

今では仕事や生活にも慣れ、地元の川上商工会青年部の仲間と一緒に、鹿野川夏まつりや道の駅ひじかわの夜市などの地域イベントを盛り上げています。

これまでの仕事で、照明や動力用のほか、消防設備、電力・通信などの電気工事を手掛けてきましたが、西日本豪雨の復興関連工事でもピークを過ぎたことから、今後の安定的な受注確保が経営課題です。地域経済の動向や、新たな技術に関する情報をキャッチし、公共から民間まで幅広いニーズに対応できる会社への成長を目指しています。

未来を拓く

～次代へつなぐ～



丸山電工有限会社

第1種電気工事士

丸山 裕介 さん

休日には、とべ動物園によく行き、2児の父として家族サービスに努める。「いつか、家族で日本一周の旅をするのが夢」と語る38歳。

大洲の風景



稲積地区のヒガンバナ 9月19日(土)撮影

今月の表紙



愛媛FCの「大洲市・宇和島市マッチシティ」で、Jリーグのフラッグを手に入場するスポーツ少年団の子供たち。

少し緊張しながらも凛々しい表情でピッチへ向かいました。